

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 111

学校名・団体名	佐賀県特別支援教育情報端末・AT 利活用研究会
HPアドレス	なし
コース	教育研究
活動・研究 テーマ	ICT を活用した障害のある児童生徒の学習・生活 支援
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>多くの教職員が障害のある児童生徒への ICT 利活用の考え方や好事例等を学び、共有できる場を設けることで、本県特別支援教育における情報端末の有効活用を図り、障害のある児童生徒がよりよく学習・生活できる環境を整えていくことが必要と考える。その際、障害のある児童生徒を担当する教員及び保護者を交えながら情報を共有し、今後のかかわりの手掛かりを探っていかなければならないと考え、本研究団体を立ち上げ、研究に取り組むことにした。</p>	

1 活動の内容

- (1) 対象 障害のある子どもたちにかかわる教員
 (2) ねらい

本県においての取組が少ない重度重複の障害を有する児童生徒の実態把握の在り方やその関わりについて学ぶことが求められている。具体的には、重度重複障害を有する児童生徒の微細な反応を把握するための情報端末等を活用した手法や、外部入力装置（視線入力等）を活用した意思伝達の手法などを学ぶ場を設ける。さらには、他県における知的障害や発達障害等のある児童生徒への情報端末を活用した実践発表を通して支援の実際を学び、担当する様々な障害を有する児童生徒への関わりに生かすようにする。その後、県内の各学校での実践を通しながら、適宜情報交換等を行える場を経て、年度末には、お互いの実践を紹介し合う場を設け、県内全体へ障害のある児童生徒に対する効果的な ICT 利活用の提案を行なっていく。その際、家庭での日常的な関わりを行う保護者に対しても積極的に研修会への参加を促し、障害のある児童生徒を取り巻く関係者が支援の在り方を共有し、関わり合えるようにする。

2 活動計画及びその実際

H29年 7月 【本部役員会】

- 年間計画の作成、研修内容、講師選定など

今年度の計画を立てるにあたり、本部役員の勤務校での状況や取組の実際等を共有し、研修内容や講師等の検討を行った。対象障害種を中心に重度重複障害のある児童生徒にしなが、多様な障害種へのかかわりができる講師や内容にしていくことの確認を行った。

H29年 8月 【本部役員学習会】

- 第1回研修会講師及び内容の決定

他県で先進的な取り組みをしている教員を交えて、特別支援教育における ICT の有効性についての協議を行った。その中で、障害のある児童生徒に対する基本的な関わり方の考えを共通理解する必要があること、他県の好事例に学ぶことを確認し、第1回研修会講師を兵庫教育大学大学院 小川修史氏に依頼をし、支援機器体験会を実施することにした。

H29年10月 【本部役員会】

- 第1回研修会の進め方、役割分担の確認

H29年11月 【第1回研修会】 参加者数：67名

- 講演 「障害のある子どもが抱える困難さに対する ICT の可能性」～ICT で自尊心を貯金しよう～

講師：兵庫教育大学大学院 准教授 小川 修史 氏

- 支援機器体験会

熊本県立黒石原支援学校	城 賢一	〈おもしろ自作・改造教材の部屋〉
熊本大学教育学部大学院	塩塚 敬介	〈見て見てパワポ DE スイッチ君〉
福岡県立筑城特別支援学校	待木 浩一	〈目は口ほどのものを言う… 視線入力の活用を通して〉
福岡県立福岡特別支援学校	八垣 圭一郎	〈iPad アプリ「FingerBoard」教材紹介〉
佐賀県立唐津特別支援学校	松永 泰臣	〈教材アラカルト～アナログからデジタルまで～〉
佐賀市立小中一貫校松梅校	木田 啓二	〈iPad アプリ 0円食堂 iPad 活用入門編〉

- 研修会の様子



《講演の様子》



《視線入力体験》



《スイッチ入力体験》



《視線入力をする参加者》

- 研修会参加者の感想

- ・講演が楽しく、本当に分かりやすい合理的配慮の話だった。私は、今までちゃんと子どもの障害に寄り添うことができたろうかと反省する機会になった。
- ・ICT 活用では忘れてはいけないことを改めて考えることができた。合理的配慮を子どもと共に悩み考えることを心掛けたい。
- ・いろいろな手作りの教材・支援機器を見せていただき、とても刺激を受け参考になった。子どもために頑張りたい。
- ・たくさんの支援機器やアプリの活用を知ることができた。次は、教材を作っていく過程を学びたい。

H30年 1月 【第2回研修会】

- 実践事例発表会

将来の「はたらく生活」の実現をめざして 一タブレット端末を使って広がる思いー

佐賀大学教育学部附属特別支援学校 教諭 廣瀬 優佳里

高等部3年生を対象とし、家庭や学校でのタブレット端末を活用しながら、落ち着いた生活を送るための工夫が紹介された。タブレット端末のアプリを使って、実態把握を行い、不適応行動の要因を探ることができた。さらに、タブレット端末を使ってイラストしてい



る自分の気持ちに気付いたり、イライラの解消法を考えたりすることができるようになったことで、友達や先生のかかわりがよくなり、職場体験等でも進んで活動する姿が多くみられるようになった。SNS アプリを使い、自分の思いが表現できるようになったことで、タブレット端末を介した間接的なかかわりであるが、指導者や家族との関係が深いものになっていった事例を紹介した。

○各学校での取組状況の把握

H30年 2月 【本部役員会】

○第3回研修会の進め方、ワークショップ、支援機器体験会の内容検討、役割分担の確認

H30年 3月 【第3回研修会】 参加者数：81名

○講演 「できる！したい！を実現する ICT の活用法」～昨日よりもちょっとすてきな明日へ～

講師：NPO 法人 支援機器普及促進協会 (ATDS) 理事長 高松 崇 氏

○ワークショップ

佐賀県立うれしの特別支援学校	江川 公則	〈iPad アプリ「Bitsboard」を使った教材づくり〉
福岡市立今津特別支援学校	山口 拓哉	〈「メモ」アプリを使った学習支援〉
福岡県立福岡特別支援学校	藤原 賢一	〈iPad アプリ「FingerBoard」を使った正誤判定教材づくり〉

○支援機器体験会

福岡市立今津特別支援学校	福島 勇	〈デキル力を生かす学習上の工夫～スイッチや視線入力を利用して～〉
福岡県立筑城特別支援学校	迎 貴輝	〈前略、教室の中より～デジ・アナ教材大集合～〉
福岡県立福岡特別支援学校	堀 恭輔	〈iPad アプリ「FingerBoard」教材紹介〉
福岡県立柳河特別支援学校	木戸 静香	〈自立活動で「にわか」〇〇をやってみた〉
長崎県立諫早特別支援学校	西村 大介	〈カステラ怪人とゆかいな仲間～OriHime、福笑い、HeartyAi などなど〉
佐賀県立唐津特別支援学校	松永 泰臣	〈ここがへんだよ！ICT利活用！〉

○研修会の様子



《講演の様子》



《音声再生装置》



《支援機器を体験する参加者》



《ワークショップ》

○研修会参加者の感想

- ・提供者の意図次第で無限の可能性があることを改めて考えることのできた講演でした。
- ・日頃の手立てが、本質的によいかふり返ることができた。
- ・子どもが本当にやりたいことなのか、改めて考えようと思いました。
- ・いろいろな支援具や学習実践を見ることができてよかった。明日からの子どもたちのかかわりに生かせそうだった。
- ・OriHimeの話は聞いていたので、実際に体験できおもしろかった。学習場面で活用方法のイメージができた。
- ・アイデアをたくさんいただきました。色々と工夫して挑戦してみようと思った。
- ・ICTを活用したいが、よく分からないのが今の私です。どのように活用したらいいのかの情報がもらえるのはとてもありがたい。今後もこのような研修会を開いてほしい。

3 取組の成果と今後の課題

今年度、障害のある子どもがよりよく学校生活や家庭生活を送ることができるようになるための ICT 利活用の在り方を探ることを目的とし、本研究会を立ち上げた。今年度は、3回の研修会を開催し、延べ150名を超える参加者を得た。そのうち、2回の研修会では、先進的な研究に取り組む2名の講師の講演を聞くことで、障害のある子どもたちの思いに寄り添い、共に悩み考えながらかかわることの大切さを知り、これまでのかかわりを見直すことができた。さらに、多様な ICT の活用方法を知ることで、今後の支援の方向性を考える機会となった。また、2回の研修会では、実際に障害のある子どもたちに ICT 機器等を活用し支援を行っている県内外の教員による支援機器体験会を開催し、実際の支援機器に参加者が触れることで活用の可能性を実感することができた。展示会に出展して教員と参加者で担当する子どもの障害の程度や具体的な活用場面等を共有する中で、障害のある子どもたちの可能性を再確認し、今後の支援の充実への意欲を高める姿を見ることができた。さらに、第3回研修会には、数名の障害のある子、その保護者、医療関係者等の参加があった。実際の機器の体験をし、笑顔を見せる子どもの様子を垣間見たことで、子どもたちを中心に据え、教員、保護者、医療関係者等が連携を取りながら子どもたちの可能性を引き出すかかわりを考えていかないといけないということを感じることができた。

今後は、参加者が各所属校において、今回学んだことを基に実践を積み重ね、たくさんの教員と共に担当する子どもたちの力を引き出す ICT の活用を模索したいと考える。そして、定期的に学習会を開く中で、取組の共有を図りながら、佐賀県としての障害のある子どもたちのできるを引き出す ICT 利活用の在り方を広めていきたいと考える。

このような研修会の開催の機会をいただいた公益財団法人ちゅうでん教育振興財団様に感謝いたします。今後も引き続き、本研究会の充実発展に努めてまいります。ありがとうございました。